

- 2021DiMM 夏山検定 個人装備一覧表 -

以下に記載した装備を参考に各自用意して下さい。この表と全く同じでなくても、同等の機能を持ち検定中の安全な行動に支障がなければ問題ありません。ただし、表の1～9の登攀用具については、UIAA規格に準拠したものとします。検定の一環として装備内容の確認をおこないます。クライミングロープはクラスタ実行委員会が用意します。ロープ以外の装備についてはレンタル品はありません。

	内 容	数量	備 考
1	ヘルメット	1	クライミング用に市販されているもので、落石対応のタイプ
2	レッグループタイプのハーネス	1	クライミング用で、ビレイループ付きであること 雪上、山岳スキーを主目的とする軽量・簡易型は不可
3	下降器+安全環付カラビナ	1set	エイト環、ATC、ルベルソなど 確保器としても兼用可能なものは兼用可
4	確保器+安全環付カラビナ	1set	ルベルソ、ATC ガイドなど 下降器としても兼用可能なものは兼用可 カラビナはHMS等確保器具の使用に最適な型のもの
5	自己確保用ランヤード+安全環付カラビナ	1	パーソナルアンカシステム(PAS)等の既製品。スリングを結んで作ったものは不可。
6	ソウンスリング	7	60cmを5本と120cmを2本 各幅20mmまでを目安に細いものが適切
7	安全環付カラビナ	3	上記の自己確保用ランヤード・下降器・確保器用とは別に3個準備のこと
8	カラビナ	10	D型ストレートゲート10枚
9	プルージックコード	2	エーデルワイス社の「ケブラーロープ」太さ5.5mmダブルフィッシュマンノットで結んで作ったもの。 エーデルワイス社の「プルージック・ロープ」(太さ7mm)で使い慣れている場合はこれでも可。 いずれも、プルージック登高、懸垂下降のバックアップの使用に耐える性能と強度を持つものであること。プルージック用の既製品も可
10	細引き	1	直径3～4mm×5m程度
11	ヘッドランプ	1	予備電池も必携
12	登山靴	1	くるぶし以上の深さがあるもの
13	クライミングシューズ	1	長時間の着用ができる大きめのサイズ
14	体育館内用シューズ	1	上記クライミングシューズで代用可。登山靴の代用は不可。 ※サンダル、スリッパ等も不可
15	沢靴・溪流シューズ	1	沢登り参加者(国際認定コース)必携。他の沢装備もあれば。
16	確保用手袋(ビレイグローブ)	1	革製 指先まで覆うクライミング用の手袋
17	雨 具	1	上下セパレートタイプ。
18	バックパック	1	40～50 リットル
19	スタッフバッグ	適数	私物整理用
20	笛(ホイッスル)	1	紐付き
21	ナイフ	1	紐付き
22	コンパス	1	シルバコンパス等、プレート付き
23	地形図	1	国土地理院発行 1/25000「大岩」 磁北線を記載しておくこと

24	行動食（昼食、非常食を含む）	適量	高カロリーで食べやすいもの。加熱調理不要のもの
25	水筒	1	2リットル分。登山研修所の水道は飲用可能です。
26	防寒着	1	フリースなど、軽量で速乾性、保温性のよいもの
27	腕時計	1	高度計付など
28	その他の非常用品	適数	レスキューシート、固形燃料、クッカー、ろうそく、マッチ（要防水）など
29	修理用具	適数	針、糸、ボタン、針金、ペンチ、ガムテープ、リペアテープ等。
30	テーピングテープ、三角巾など	適数	関節や筋肉の保護、または応急手当用。
31	医薬品	適数	内服、外傷用など少量。持病薬も。
32	健康保険証（写し）		
33	筆記用具	適数	
34	登山に適した動きやすい服装	適数	タイツと短パンの組み合わせは不可 薄い素材でも長袖、くるぶしまで覆う長ズボン 沢登り用には速乾性繊維のものがよい
35	帽子	—	日よけ、雨よけ用
36	トイレトペーパー	適数	水溶性の物
37	研修所での生活用品	適数	タオル、洗面具 着替え、マスク等
38	虫よけ、虫刺され薬	適数	

ここに記載していないものであっても、登山中に要救助者を救助するのに必要と思われる装備、山岳救助隊と同行する場合に必要なと思われる装備があれば、必要に応じて各自携行してください。